

派學良氏日本記者團と會見

来て無することこそ山程あれ様すではないか、先が歌に高い酸像板ではないか、先が歌に高い酸像板になってはなったいが整合ではならなかつたさころが元々だ。

新務省ル酸と内閣の一局で

四、交信任用会を改正して官立大場とりと直に高等官さなり得る鑑を 事務を簡捷にして三割を減すべ に政府に送り管理を期するさ共に に政府に送り管理を期するさ共に は、實行政能な事項は國政改革 をべしてのが針を輸定した。 幹部懇談會

新輸出

關稅の實施

却て自國農民を苦める

矢張り六月上旬から實施か

たが之に関する若槻内閣組閣後第の連絡統献が配って進む事さなつ 版七百七十一萬四千圓にもて建築 に比し三千六百五十二萬九千圓さ に出し三千六百五十二萬九千圓さ

原東京三十日数 四月下旬外國宣 「東京三十日数 四月下旬外國宣 品 目 質 格 前年同期比較

た奴と智慧院は 出好況のために建る た奴とを表院は は他に

を本たすもので動られて居る、細胞の線勢に鑑み、今年度下特別の語が需要量は例年に出る一般の増加を本でするので動きれて居る、組織を表現の語を表現の語を表現のである。

輸出入重要品

棉人花

3

不況を物語るもの

信濃丸査證問題

から七萬枚に減じたと傳られてる。これ等の實懐から既にハルピン油の生産高た平均九萬枚

U 3

ヤ税關で

**若處**當根以下閣僚、政務官招待晚 《東京廿九日般》日本新聞協會の

各閣僚招待會

解決

連鬼、第十五巡院が、多美鬼の三般はいよく〜査證を終へ二十八日と後五時間前後して函館出戦北洋

露水組合も

聯盟

軍縮首席代表

字垣前陸相擁立說有力

新協

定を承認

貫行可能

f

11

**旦ちに政府に** 

廻附

きのふ民政黨特別委員會にて

行整根本方針確定

委員會 院改革の るが大蔵舎営局では鎌箕額を割る 機な事はあるまいさ云つてある

下旬貿易

萬餘圓 **人超五百七** 

以降の入語泉計は七千八百十四十二萬八千間を夫々減少した一日十二萬八千間を夫々減少した一日 東京三十日参』大融省参表、四 月下旬外國智慧は 『東京三十日登』ループル操算率 の日露交渉中出線を選付したる日 標業信息丸を議問題に関しては 午

日 は 1 日本 では 日魯三隻出帆

東京二十九日

全人 本であるがロン で説が有力となって来た。 の際ない。信任・解説もあるがロン で説が有力となって来た。 の際ない。信任・解説もあるがロン で説が有力となって来た。 のか、教性軍、日本キリスト、組 をしては登録本部第二部長徳川公 される城きことあっては一大事と も次いで信者が多く、基督教は園 野漁 が、教性軍、日本キリスト、組 を のである。 のでな。 のである。 のである。 のである。 のである。 のでなる。 のでな。 のでなる。 のでなる。 のでなる。 のでなる。 のでなる。 のでなる。 のでなる。 のでなる。 のでな。 のでなる。 のでなる。 のでなな。 のでなる。 のでなな。 のでなな。 のでななる。 のでなな。 のでな

真宗最も多く一萬六千戶

遞信局長會議

關東縣中學校教諭 志垣 能雄

■▲岡本小太郎 以(前大連伏見臺小 學校々長) 惜日市内各方面か歴 訪辭任の挨拶を述べた

基督教徒は少ない

豆粕小蔵高は三百 **需要喚起** 四月 中生產高

特の需要が がける確安協定問 である。 校の増加か示し前 中の生産高

萬八千五百六十九戸で

連たが張學良氏にさつては不然で ないのは離にかけられてゐる粉飯 ないのは離にかけられてゐる粉飯

體って北がのちに

キリ言へるやうだ。その繁光経順 學良氏の對内能に直顧してぬる立 場に吹いて樹茸して以下若代級 れる山西軍の鑑選問題であるが と評するより外な きがするより外な つかれるだけ引っつかれるだけ引っつかれるだけ引っつかいます。 既は

競争良氏の悪人京は際に問題で ない。問題は来て如何するか来て ない。問題は来て如何するか来て しその無人京を観ふ人があるなら しその無人京を観ふ人があるなら

、昨秋間内出兵に置つてのギャラ、この大きい質があるではないか

尽に來継い何のひけ目が

型あれ扱す

乗りはせねだらうし、沈んや客分 たち風撃曳氏においてややである たり四階の懐默から歌て張學良氏 から歌歌が最近益々重要性を帯て 本たこさ及び今次の國民會議を通 なくその地位がいよく一職立され なくその地位がいよく一職立され ないであらうこさだけはペッ 地方税 をさらの代りに関
を来すわけであるから除り心果を来すわけであるから除り心

張學良氏入京と

對內重要諸問題

佛 一〇七 一三六 三二、九九九 韓 石九 一五七 一〇、七三四

別車で降速した氏は器る 

お氣の毒だが れる遼陽

岡田瀟鐵庶務課長の視察談 ん仕方が無い

さつた處置が悪いては思はれなうさいふのは當然で大岩所長の

田来高、八十軍出来高、八十軍出来高、八十軍出来高、八十軍出来高、二市五日和出来高、二市五日和出来高、二十五日和出来高、一千五日和出来高、一千五日和出来高、一千五日和出来高、一千五日和 04.111111.40 1111111100



**公報を添ふ** 









海標金

「押す跡廣東筋二千百本買び いるでり臭培初高値利食 関い金でり臭培初高値利食 が五千本買び正大磅三 の一注買びに伸びる福昌一 の一注買びに伸びる福昌一

出來高《銀對洋 二萬國

000.000 一、六三五〇 八九〇〇

東新(引)三六 六月

市

法人の部終了

健全なる統一は

支那には尙困難

駐獨支那使蔣氏談

張學良氏

南京に到着

で、大変をは二日午後二時より開く響き、大変をは二日午後二時より開く響きし、 大変により、 大変によりにより、 大変により、 大変により 大変になりにより 大変により 大変によりにより 大変により 大変になり 大変になりになり 大変に

社宅事務會議

内地株ポンヤリ

皆市現物の東新舗新共二三十段

1、00100

况(日十日)

東京三十日華

肥の手管には表が卑鄙さるといった関係から内地の買注対も一般の大震であるが、來月中師。至れば更いない。 京総の根據も大勢からみて度に安くなるものさみられるが、來月中師。至れば更いなが、來月中師。至れば更いなが、來月中師。 と 対府の召覧に接し南京への贈金と対府の召覧に接し南京への贈金と

\*算に比心三千六百餘萬圓減

三十日午前九時より漸緩本社會議第二日は前回に引護き各地より出席の社会事務關係者甘餘名本 制能より中西人事課長以下開保社 ただればなる本制を名本制を名本制を名本制を表した。それにある。

「南京州日参」張學良氏は張松を 「南京州日参」張學良氏は張松を 「大場深直に銀統氏等さ共に天本を 「大場深直に銀統心の宋子女氏電版 「大つた、午後七時蔣介在氏さ會 「大のた、午後七時蔣介在氏さ會 「大の末子女氏電版 「本場深直に銀統一の宋子女氏電版 「本場深直に銀統一の宋子女氏電版 「本場深直に銀統一の宋子女氏電版 「本場である」「本場である。 「本場である。 「本は、 「本は 共產黨防止 辦事處を設置

他の語案の影響をなし続って午後 東京 野東町県野紅成 山の都注意に 東、野栗町県野紅成 山の都注意に 東京 野田 東京 明年度事

ばいかる丸船客

人氣引立す 商

受渡休會

の第一回會合の結果は顧る注目さするもので見られてゐるので當日

0

關稅總

昭

旅大回收の聲

可能性の無

社

說

会談院職座の欧正監巡に 東主義に跳しても破影音以外の を記しても破影音の外で を記しても破影音の外でで を記しても破影音が表しても を記してものでで をいるからない。 でいるからない。 でいるが、 的に提示し各級上記で を登録を同じ関する事務

陸軍長官會議 なった 地方長

しく恢復しない所から

卅三株の行方

脚かれた二人の主人公野巫の大寒 情はまるで大郎蔵式のやうな賑や かきでありました。宴會の終明の はオテージを繋・シェリヤの山奥 はれました。アンコール、アンコ した。変をの終明の大寒 がありました。宴會の終明に した。アンコール、アンコール、アンコール、アンコール、アンコール、アンコール、アンコール、アンコール。

平佐二郎

生の

中佐の戯雀を怨めらく思ひまして呼のかかいの余数・連れて行く

ないわよ、そうしたらおの際目 たいな支が人の云ふこさつたら ないわよ、そうしたらおの際目

小なな

をいでせう」なんて随分形だり といでせう」なんて随分形だり

ですな動が致します。 御郷出来 中うな動が致します。 御郷出来 中うな動が致します。 御郷出来 をうな動が致します。 御郷出来 の方が趣がに前継い

日本の は は は ない は は ない は は ない ない は は ない ない は は ない ない は は ない ない は ない ない は ない ない は ない ない は ない

た塚、起は昨日主人公等 からました。夜の

ない。手に手を執っない

アンドライ シーガミー

坑を見せて吴いらしで「つりにハルビンや奉天や撫順 さ云って難むのよ。

がほしかないわよ、気味がほんかないわよ、気味がられ、寒味が思い

と私の際に寄っ

於順塞が起ち上つて來て起の左

の手を執り

生のメン代だ、酸

はありませ

一人が私を施順口

衛在 決して長いこさの主人公等のラッア金

とないのは山々であったが、国 でなかった。 でなかった。 でなかった。 でなかった。 でなかった。 でなかった。 ではなかった。 ではなかった。 ではなかった。 ではなかった。 ではなかった。 ではなかった。

歌に全國に張る革命熱を極度に魔安に酸はれっに至ったのである、

日

元本交通運輸問題の極威であるば るご「今年こそはなほす」を聞いてみ を励に關係ある人薬に聞いてみ を記し、一覧に充分の手が加へ を記し、一覧に充分の手が加へ を記し、一覧に充分の手が加へ を記し、一覧に充分の手が加へ を記し、一覧に充分の手が加へ を記し、一覧に充分の手が加へ を記し、一覧に充分の手が加へ を記し、一覧に充分の手が加へ を記し、一覧に充分の手が加へ を記し、一覧に表し、一覧に表して、一般 できるのだと考へて を記し、一覧に表して、一般 できるのだと考へて を記し、一般 できるのだと考へて を記して、一般 できるのだと考へて を記して、一般 できるのだと考へて を記して、一般 できるので、一般 できるので

思事なごだつたら危険な所さへてもたまちなく振り動かされる

れた脱水のやうなものなどは存むを低が山である、不然な支那にでもなつたら蚊の塩素所に

ける大通りのこの二

のこのニッの幹線が

された探院院山部は事質無機でここである、最上壁近新聞に報道 と保定で、 で表する事に共産分 に活動した名か農民 に活動した名か農民 に活動した名か農民 のではる共産が のではる共産が のではる共産が のではる共産が のではる共産が のではる共産が のではる共産が のではる共産が のではる共産が のではる。 のではる。 のでは、 ので

されるであらう。何さなればスペインには、「一年」の形式で概要政治が持續である。で、一般明書の終りまれるであらう。何さなればスペインには、「一年を持ちたが、一般明書の終りまれるであらう。何さなればスペインに

目の銃骸の下に於てのみ

隠縦し一九三一年の二月

上空に現れてスペイン兵士に告ぐ

佐が愛暖や操縦してマドリッド の國民的英雄ラモン・フランコ

登し大西洋機能で有名なスペイン アカ市の特像を中心に短続が朝いたのは、像絵を中心に短続が朝い

鷺子の鎖な

小思議さうな眼差な調なの?」

「なぜツて、五十萬弗のお金がボースをでせうれ?」

れア一體ごう云と

ものツて、そ

「ヂョンニイ、貴方本當の話して

れて、道に女ら

して、「たい事を聞かさ もない事を聞かさ もない事を聞かさ

されて来らやつた遊なんだも はりも、初めツから慶盛む心算な んざなかつたと言ったががいゝん た。自然と手に入ったんでボケッ

**广**員

入用二十**造**遊 遭鎖街清明

73

をはしむれば六月の想選撃の結果。 「至つた。リヴエラの懸たして いこ至つた。リヴエラの懸たして とを終過した今日早くし覆へさる 相冠後パリの客

軍治下のスペインは並に「度の不 を動から軍隊の反射とペレンゲル特別の大地震を表着の大 報心た事質である、ゲッ氏に対ア が出て膨脹整望一駐地を抜く政治 では、から氏に組織を依 では、から氏に組織を依 では、から氏に組織を依 では、から氏に組織を依 では、から氏に組織を依 では、から氏に組織を依 では、からたに組織を依 では、からたに組織を依 では、からたに組織を依 此の政變で注目に値す 自由意のは、

印書 邦文及英文タイプライター会社 ・ 一覧部通九六 英學會プリント社 ・ 一覧部通九六 英學會プリント社 ・ 一覧部通九六 英學會プリント社

邦文大連名

倉に崩壊された後、 

肯膓 病

傳家

婦人病が

**阿**朝鲜虾船速帆

大郎 電話四六九二番 大水郎 電話四六九二番 大水郎 電話四六九二番 大水郎 電話四六九二番

に機能業が登台され全職 華地 一本版運動に織を登してマドリッ

に暗黒の巷さ化した、十二月には誇るスペインの國都も、飛殿会下

無和派の逮捕事性からスペインは、國心あげて無機の甚さ化し 共和派の逮捕事性からスペインは、國心あげて無機の甚さ化し 無和派の逮捕事性からスペインは、國心あげて無機の甚さ化し

1

ン革命書報

れしゃ申上げたさいふ 「多分土の中だ

いて下さいよの僕が黄寶廷の殺さ

クサ 及胎

大連副易森根本薬同電七八六二

住家 磐城町一一番スチーム

モミ

特田順天堂 電話四六九二番 大連市河速町 製 電三二〇九番 野荒が望みの方は

「盗んだのは野なんだのは野なんだのは」 操揺さ」 、黄質延に決つてる

はそんな事に興味な 

夢子は言はれて、一寸顔を染め も欲もくないがはあし

たんぢやなかつたの だけざ、さうなるさ出て機會がなくなって、選それきりになってるとしてできると出て機會がなんです。だら関アそんな大金なんかか能しくもないから鍵脈に返してあい、調なんだけざ、ごうも近頃に 塵紙

をされ、あの支那人は髪に頭を るされ、あの支那人は髪に頭を で寒濃銀行さの間に色々なな で寒濃銀行さの間に色々な交 さで寒濃銀行さの間に色々な交 さで寒濃銀行さの間に色々な交 すでステラセル特単やアレクセ 上エフ大光閣下に漂山御鯱ひて ることがありますから、是非バ

算盤 天帆 白帆 受良の三山島紙 野中に家庭向徳用の生産

拓茂洋行 電話五四三九番 此甲に限るが使紙は 此印に限るといればい

第一邦文 中 書 趣 需 大連市大山道 小林又七支店 東 の 御用命は 野越 将造頭量運河通關代辨大運災業 清田商會 電二一二七九 瀬戸物へ 三可町 単四 きべた七丘香

**に連西通・常盤器・西廣場中に 喧話七五二八番** 



○四九、三三二四能登町六七 不用離に良く如く試あれる 三共商舎 際ハリ灸専門療院 お灸 際ハリ灸専門療院 の現れる 三共商舎 

家傳が灸

印刷

本社販賣部 ・ 本社販賣部 ・ 本語 四七六七 ・ 本語 四七六七 

産婆 內下

傳 博 林樹の響丸の割節の特殊のコーマチ 林樹の響丸の割節の特殊のコーマチ 特人病内膜の喇叭管の場条。 胃 糖尿は國家領陸の基本なり 大連市漂速町五丁目二百一番 摩ハリ炎・駒野奈院 摩ハリ炎・駒野奈院 下で、リーマチ 大連市漂速町五丁目二百一番 下で、リーマチ 大連位置なり 大連市漂速町五丁目二百一番 全 島谷汽船 強出帆

國際連輸機以大連支店與關係與所有關係與所有與所大連市山縣通



電話セハ六七

林 濟生醫院 病

変生助産園 大連市条業町エデジノ大連市条業町エデジノ 大連市条業町エデジノ

を傾らはせ 0 調 タイムス所論

大連 大連 花 園 生

かされるのみでまたも花の帯に

内以行十五 迎歡書投 すらさは塩中

がに割れてゐる所さへある。

って松山盛い抜ける新らい通り

停留場に扱ける大通り、電線遊の停留場から這入つて松川藍の

殿の手入れはピントが外れてゐ

もの

枝庭

朗年

金三拾鐵增

盗んでみたら五十

夢

(39)

000000

満

日案内

書き

ない角めに手が加へられないも

園下から消鐵のグラウンドに抜

大連の悪

種の粉質が書

大 は 製作の まである、 いか る 手段の 体化さしては 鎌背 は 型花の 非常手段 を 部 時 停止 て べきである、 いか る 手段の 体止 は 全 きである、 いか る 手段の 体止 は 全 きである、 いか る 手段の 体止 は 全 きである。 いか る 手段の 体化さしては 鎌背 腺

軍は彼に野地して緑地とく散り果てたった。 て繰りに登録な伝統ではいるというできまった。というできまった。

國

革命

不安の裡に終始した

最近の過去一

年間

がら出して来たっぱい たこの小僧みたい、大松五十萬弗つ でこんな大波輝ち

『暗跳女を盗んで来たの?』

いっないんですよ。僕が持つてるのは、その金が匿してある場所が暗れ、その金が匿してある場所が暗れるなななないです」 でなてんだ、変、なり合いしてたけざ、なにれ、その金つて、今、 「ちゃっ」 東京文 原和文タイピスト短期養 原和家政婦附添婦募集及派遣迅速 の成英語個人及クラス教授 が成英語個人及クラス教授 の大学のである。 の大学のである。 では、大学のである。 では、大学のでは、大学のできな、大学のでは、大学 文 給 数名至急入用 連鎖街京極通 バー

女給

なんてものをす 一個も調なんざいなんで 「五十萬弗だツてための紙きれなケットにはいること?」 「小明子?そんなに小明子がある「小明子ださでも言ふの?」

女中 数名入用 ホール改造に付数名至急 ホール改造に付数名至急 を紹する。

西品 券勸業債券賣買並に金融

学服に経験ある方 学服に経験ある方 受力をに経験ある方 要其他家畜類診療 で、経験ある方 要其他家畜類診療 で、一年大病 を で、一年大病 で、一年大病

古着 指頭具高個質入 出底町 たじまや電六六〇一番 おりまり 

美濃町空町炭場前礁南館電景芸術本台 食事夜具共月廿七圓の割

**與築** 左官材料安徽的 十号 大連牛乳株式會社 大連牛乳株式會社 午乳 パタークリーム

譲み 見 大和尚養兎園

海 五月十日 五月十日 五月十日 五月十日 一 五月十日 一 五月十日 一 五月十日 一 五月十日 一 五月十日 一 五月十日

一商會 

中村九時出版 居山丸 五月岩山 大阪商船 (大連支店 大阪商船 (大連支店 要基础有扱所(大連市山縣通)

||日清汽船||出帆

蓄

一時間修繕

大阪商船出帜

Waterman's Ideal FountainBen 后具文堂書滿



工

**高業者等も望まれ** 

やるなら一そダンスホ

主人の質

日

當局の神經を尖らしめ極力ならせるものあり満續館1分

ダンス取締に養意を表したスグ

子師近の村長某に思

大長節觀兵式 長春にて

村長へ

0)

石

橋

日、東端の無線

恨みで

上夫の鐵道妨害

聖壽の萬歳を祝ぐ

谷地の天長節奉祝

一般市民ご共に祭戦 長春神社井上神管は 長春神社井上神管は 長春神社井上神管は

(四)

營口

1 決 選

ではれる全職関数全 が五月三二零天道場が五月三二零天道場が五月三二零天道場

曲豆宮田 であり非常に好都合ではあるが西外頭が利用出來るさせれば近代戦時の数様には臨るが西外頭が利用出來るさせれば近代戦時の数様には臨るが、これは餘談だが内地では金あ、これは餘談だが内地では金あっても含乏人も満手に栗の者が多分にあるが起からないまない。

れた 民衆こな提振して行くことに努力 民衆こな提振して行くことに努力

長春在住邦人 軍隊をよく理解 人は

中川旅團長着任感想

日來逐師順司令部訪問の上經監 人 事

大隊騎兵中隊を出動せらめた時に本局から警に各一隊と公安

0

日午後二時から記念碑域内に放 「一本郷軍人旅順分言海軍班では監 「一本郷軍人旅順分言海軍班では監 「一本郷軍人旅順分言海軍班では監 「一本の監日なるた以て第十の知く 「一本の監日なるた以て第十の知く ●:金襴中國郵級管理局に動しの代名詞で名称の成立では百七十餘名であった。 ・ と後で採用されてあり英、米、 ・ を後で採用されてあり英、米、 ・ として管理局とのが人工をであったが 中央政府補充析採用を一様疾止 ・ として管理局との終人に ・ たして管理局との終人に ・ たいでは百七十餘名であったが 中央政府補充析採用を一様疾止 ・ たいででは百七十餘名であったが 中央政府補充析採用を一様疾止 ・ たいででは百七十餘名であったが 中央政府補充析採用を一様疾止 ・ たいでである。 ・ たいでである。 ・ たいでである。 ・ たいでである。 ・ たいでである。 ・ たいでである。 ・ たいでを含むの局とは単一様ない。 ・ たいでを含むの局としまでであったが ・ たいでである。 ・ たいでである。 ・ たいでを含むの局としまでである。 ・ たいでを含むの局としまでである。 ・ たいでを含むの局としまでである。 ・ たいでを含むの局としまでである。 ・ たいでを含むの局としまである。 ・ たいでを含むの局としまである。 ・ たいでを含むの局としまである。 ・ たいでを含むの局としまである。 ・ たいでを含むの局としまである。 ・ たいでもの。 ・ たいでもの。 ・ たいでもの。 ・ たいでものである。 ・ たいでものでは、 ・ たいでは、 ・ たい

一月独領海警線出子間の銀道線等上に砂礫を堆積して突海際球を埋積して突海際球を埋積して突海際球を変 の四月二十一日又々南北海崗子町の大阪県市近畿洋線路の司令電話場の四月二十一日又々南北海崗子町

**閑院若宮殿下** 

ふ奉天に

ホテル

に御宿泊

乳兒の愛護デー

匹

平

街

色んな催し物を擧行

優良乳兒は表彰

天

野玄関いら自動車に召

奉迎その他 0

世る幼兄

第外の利益がその計算に含まれて 定じあるが金七百圓さへ集れば計

大生や

増設の電球を盗む

捕へて見れば我子の悲哀

の徹域で赤字た出す

戦取扱ひを避けることに於ては危険が、 れたがその監後に至り電球・盗転が手線の乗艇も十七日から駆火さの手段も十七日から駆火さの手段を十七日から駆火さのが、

職して一先づ放還したが歌祭響に 一般が極致しに努めたた魔術へて見 で下科大学、一中生徒の 化教なた事、現認され夫れんと説 で下科大学、一中生徒の でしたが歌祭響に

た、犯順者が我が極後に使って発情では犯人發見次第身分の如何を

| 本語へき | 本語の | 本

契約の内容は大正八年假場約で あつた既設水源地一萬八千五百 坪の本契約書替さ擴張水源。三 つてその

ない夕日

がいてあるが関軍の

州城、稲馬所等を見學の上即二歸 士官學校生徒

地の呼吸水域地一日微水最近五百 地の呼吸水域地一日微水最近五百 側上で擴張による一日の演出最深 概は一千三百順 ら一千五百順に 上で淡水工事に着手するのは七八 工作機・対しの酸碳物にから追加漿繁の部とで淡水工事に着手するのは七八

月給取安全第

驅が弱いからご優しい親心

田村美枝子さんのお母さま

この頃は大分

の邪激ないお概さん、背のよく伸 東く割白なコーー艦の仔太を抱いて である姿色の様いドレスにお下髪

したのでおけいこ数さしてかりとなっておけいこかとい様で一時は何も彼もお

の不景氣では矢張

娘の親から日

想のお婚さんないら見た

美枝子さんは一層がくなつて繰りて下腑向いてしまひました

さころが美枝子さんは顔を聞くし

けれざ、あまり丈夫さ

これまで

自由に育ち

にくい磯の上か野等させる、際はコッケイな外をうごめかしなが生れてまだ間とない可愛いやつか手込手に引驶つて來て絵に歩きこ、普通の時事では配白くないさめつて考へついたのが猴子顕彰

豚さんの競争

好でも命を

れた、この装置はフォノ・カッピーと稱と普通の蓄音器に取つけて生物と普通の蓄音器に取つけてよる器械で家庭娯樂さくここの出來る器械で家庭娯樂さ

而も一度吹込んだと

を解放、潤の上での喧噪口論(で) 内に空東視ひ、火の御用心、外内に空東視ひ、火の御用心、外

月代となり

0

曲

田

サベルタン族の行列場 き重

片岡正太郎

里見義郎

装置が日本人の手によって考察が無透験めて簡単に吹込の出外

いているも別れたこと、スタートの係には特に勝君に似たやつならよろよろさかける、これな聴機するおてんば連のうるさい事はにくい砂の上な勇有させる。

## **〜午の節句近づく**

不景氣でも流石親心から賑かに 大連各幼稚園の催し

ちゃんを主質さしての楽しいお祝り 五日の帳政者人形を飾つた前で坊 かって り 前十時から園 だけで唱歌、遊 がから 北公園で同じ様に園見だけの 殿があって栗子を配る。 に十時から園見だけの 殿があって栗子を配る。 に十時から園見だけの 親があって栗子を配る。 は十時から園見だけの親があって栗子を配る。 は十時から園見だけの親があり 神餅を供する

機・花・塗幼稚園 十時から内輪だけで遊戯、唱歌、お話等が輪だけで遊戯、唱歌、お話等が 南山麓幼稚園十時から園

時から内輪だけ柏餅でも開南沙河口幼稚園こ

聖徳幼稚園

吹込んで直ぐ

ウエイト

v スか行

進曲節

水二

島村

京定

いまが出盛り

蝦のお料理いろ

さいへば従来は七百面も八个園も フオノ・カツビー

へてドロリヹさぜ温いうちに頂生の蝦か身ばかりごり捜り鉢に をます。

本人では切り之をパタでいため 気がしたなまりプツーへに四つか 製の皮を去りプツーへに四つか 製の皮を去りプツーへに四つか 製の皮を去りプツーへに四つか 製の皮を去りプツーへに四つか 製、片栗が、玉子の白味を加へ 製、片栗が、玉子の白味を加へ 製、片栗が、玉子の白味を加へ 製、片栗が、玉子の白味を加へ 製、片栗が、玉子の白味を加へ はいうちに頂生の蝦か身ばかりごり捜り鉢に

度に必被性です。 とは、いってすから一週一度の洗髪は には、ですから一週一度の洗髪は 頭髪が拔けて困る 最近非常に頭の髪が抜けて困っ 最近非常に頭の髪が抜けて困っ てをります、適當な手書をお歌 へ下さい、一週間に一回位洗髪 は差支へありませんか、四ヶ月 前丹毒に罹つたので或はその鳥 めかさ思ひますが今頃になつて 抜けるでせるかへ一女性ン



社會式株器音蓄東日

六四町島中市岡福

コナカツタ?」太郎ハノリダシ 丸 號 「ドコへ?」太郎ハ ユ ク オモツタノデ セ (四十七) ジンハ 次 オチツイテ

日



常磐津

カイ職域でដいても容易に出来、 めて職域でដいても容易に出来、 が返表が、他り器共セットで三十 W、ショードは一枚二個であるこ 主三 白濱 鳴

杵杵

ð 工廠美榮子 本丈一 田兵

屋屋佐 大佐 郎吉

人店 ሙ \$ 男先 戶 荒川歌江 柱脊團治 橋家勝太郎 竹本南部太夫

同 菊 三 郎 南 三 郎

清

デスレシュ

サル、

朗

り 子の失敗

木伏郡 下見築 吉正文 助光男

放ったは春の色

の 三

もちよく明るく電気がお徳な経済電球



长 そく治療

整体 松尾は、仙庵堂

御相談に應じますの総での

電話大五四四番以連市兒玉町四番山

構造-計算-鑑定

宗像主



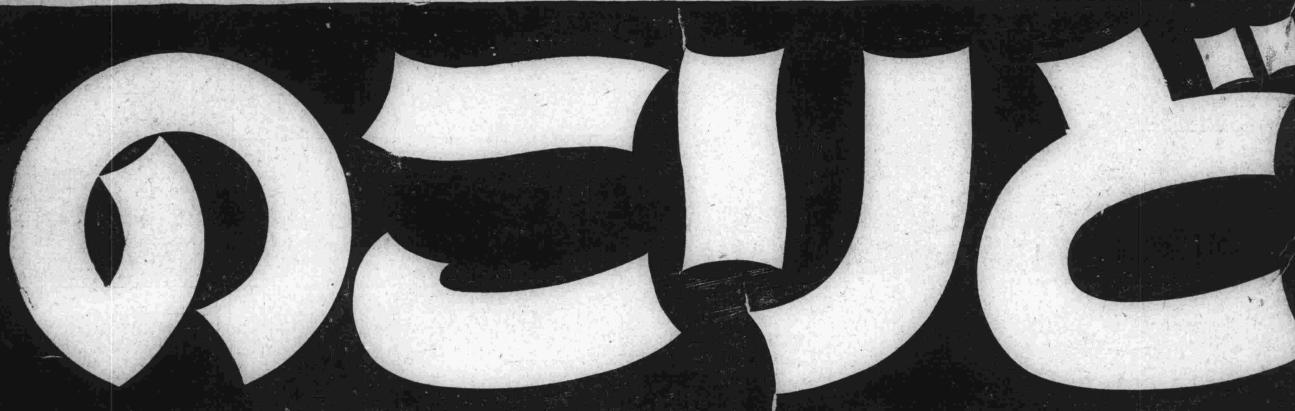
美味しい・

0

ア等に入れて

D-59

國の築店・自貨店食料品店



成分デ、ソレガ血ノ中へ吸収サレルト、築養 故三現今ノ醫療法デハ、際死ノ重病人三對 重ナモノ丈ニ、甚ダ高價ナモノデス。行ハレテ居リマス。併シ葡萄糖ハ極メテ貴 豊かなる甘味 「とりこの」 味覺滿點 消化ヲ要セズシテ 葡萄糖ヲ注射シテ生命ヲ保タセル事ガ これこそ頃に 川精力ニナルノデアリマス。 主成分

一瓶中ニ含マレタ

◇『どりこの』ニ配会を「どりこの」ニ配会を「どりこの」ニ配会

ニスル働キヲ有ツテ居り

コンナ譯デ「どりこの」ハ、

ソレ自身が滋

0

### 葡萄糖・果糖ハ實ニ時價十圓 ニ相當シマス

氣分ヲ爽快ニシ、內臟諸 「どりこの」ヲオ用ヒアレ 

醫家・病院等ニテ盛ンニ使用

モアリ、強比劑デモアリ、又嗜好飲料デモ養料デアルト同時ニ、他ノ食物ノ消化劑デ

直チニ

人セラル

果糖

アミ

アリマス。 

次ノ様ナ人ハ、 何ヲ措ィテモ

テ、教養料トシテ完全ノ効果ヲ曝ゲルコトガ出來ル。産前産後ノ婦人ニモ適當コープリこの」、「甘味ト香味ニ富・、洵ニ現代人ノ味愛ニカナフ様チ上品ナ新鮮本産前産後ノ婦人ニ適當…醫學博士 櫻井 テ唇ルカラ、極メテ調法ナ合理的ナ紫養物デアル。▲ 消化ヲ要セヌ滋養料………醫學博士 佐多 ▲甘味ガ上品デ理想的――醫學博士 井上 ■發育不良兒ヤ虚弱者ニ…醫學博士 柳澤

# / 權威悉 / 貫

有シテ呂ルタメ味極メテヨク、マコトニ何人ニモ適台スル滋養感で、「どりこの」へ容易ニ吸収セラルベキ性狀ヲ有シ、日榮養價大デ ノモ大ジョロシク、姓優レタ成分ヲ持ツ『レ ▲醫師ノ最モ良キ味方……醫學博士 杉田 ▲保健上理想的ノ滋强料…SB層博士 中島 ▲何人ニモ適合スルモノ… 三遊ど皮レテ歸ッタ

### 老人にも子供にも婦人にも、 **工作乃至七倍の** んだら忘られぬ天來の 「どりこの」 日常常 は頗る妙です 戸にも \$ 言へ様なき美味滋養! 美味・ やかなる香味 モ滋養になる! 2 ホットケー に混ぜて キにつけて て最好適・ ○どりこのア ◇どりこ 0 % ス(水水に瀬度に入れる) (牛乳に入れる) 然も素晴らしい滋養

けんのメ

お祭騒ぎは一切なく 日支官憲は嚴重警戒

本今、處不様、ソウエート職 大変が共管成の眼を光らして では一切せぬらしく覚悟機関たる は一切せぬらしく覚悟機関たる は一切せぬらしく覚悟機関たる は一切せぬらしく覚悟機関たる が、お祭り騒

は既に活氣を呈してゐるが殊に本 | 運用觸經暫艦奪日(艦長小野歌する時機になったので滿靈旅客課 「春日」ける入港日本内地からの落戦視察職が発動 「春日」ける入港

新記録を

卸賣市場改善の

收支概算書

國際競技會や開催 陸上競技、野球、排球、蹴球を行る 奉天國際運動場開き 流選手の

一月五年

六

一丸の御水蔵に全関十二府監 乗の御内意に依り特に宮殿

記念碑高地へ

く宮中楓山御養護所にて御業での要き思わた以て毎、東京三十日簽』皇后陛下に

常 のイアオロギー

観光旅客の為に

満鐵から案内

適當に日程もつく

新聞記事掲載、 店頭宣



春季競馬

對福岡柔道戰 滿洲側選手決定

さに宗島氏事務所で雕りつどけったららい、そしてこの開派け

全職闘撃全滿洲の日本代表館業遺大なる期帯を現て悪へられて居た 0

そのミカド時代からダンスを対ったのミカド時代からダンスを対って知られてゐる長漢市社

こさはスペルタの財産が有線限 このダンこさはスペルタの財産が有線限

おいて 財 郷か 充分したががいくして高級のものさする一頭にくして高級のものさする一頭に

十九八 市 改雜 八 - 市 改雜 一

長等で共に南下郷低でお助 別乗上げたる後、同夜十時四 天覽記念に 内徑十五尺に

犯人逮捕

後援滿洲日報 社会 大連市民射撃會

金三十五錢

謀の

川崎市で

時景観大連に向はせられた 二日の御日程

下二日の御日程

の質め最近者る しく変感しついか選邦してぬる如き矛盾あるなど 大連署の警戒 で重大班人とされてある。 で重大班人とされてあることは自然試合を複雑なら 大陰謀を計画せる事質景像に 大陰謀を計画せる事質景像に元來力さ力さの争びを原

乳養兒愛護週間

警視廳の警戒 Aプログラムはい

年記の如く家族會を兼れた観櫻會 の開東州支部では來る五月三日 の開東州支部では來る五月三日

日本各

地名

産

物

電八五〇九・八七五六

世世

渍

の城く寒寒の勝神にからた は、隅田心聴樹、山縁樹間三千米 コースにて繋行コンデイション源 コースにて繋行コンデイション源 が成して結果左 ラグビー協會

會議室に於て定例總會を開催し會議所というとり滿端計算は樂部 ーズン期を決定し會員 役員其他決定

界各國

酒類

食

00

東京風菓子謹製

大連大山道

實林 賣買は親切で堅實な弊店へ御下命願

呂谷惣右衛門商

大阪市東區北濱一丁目三十四番地大阪市東區北濱一丁目三十四番地大阪市東區北濱一丁目三十四番地大阪市東區北濱一丁目三十四番地

カスカ きボース・フ い味 エ

大阪株式取引所短期取引員價證 券現 物問 屋 ます

江戶 金からしなめま 南町河三堪広西市運大 卷0一四五話電

製 マヨネーズリース 新菜用……リース



二名を檢撃した右を 関してお 

二日から六日迄五日間

早慶端艇戦

世九日發』復活第二回早<u>慶</u>

吉野町小火

超

花見運動會のお辨當 御散策の御歸りには食堂の御利用を 特にお安く御引受け申 浪速町 は しまかり は

最品複額を萬七千六百個 場品複額を萬七千六百個 場品複額を高七千六百個 二等量時計(大風)百本 イフ(三種)一萬本 五月十五口より 出質桝目確實 連鎖商店の問屋大島屋へ電話ニニロの 千圓のひろひ物

景三等銀製

リよ数十八<u>層五十型十億2~29</u> イまりかてへ指取種十数品のみ国際

日米相場

は

振っても落ても止らぬ新装置振っても落ても止らぬ新装置

三回小銃射撃會 五月三日午前九時射撃開始

道早の功成身立 梶田

日本時計點

小兒科醫院

柳川なべ

かばなぎ

(七)

直接ではよかつたが他の影響